

平成28年 第2回定例教育委員会会議録

1. 開催日時 平成28年2月5日(金)
午後3時00分～午後4時57分
2. 開催場所 柏原市教育委員会 委員会室
3. 出席した委員
- | | |
|---------|------|
| 教育委員長 | 三宅義雅 |
| 委員長職務代理 | 山崎裕行 |
| 委員 | 田中保和 |
| 委員 | 西育代 |
| 教育長 | 吉原孝 |
4. 出席した職員
- | | |
|-----------|-------|
| 教育監 | 蛇草真也 |
| 理事兼公民館長 | 酒谷敬三郎 |
| 次長兼教育総務課長 | 中野佳彦 |
| 次長兼社会教育課長 | 井須浩嘉 |
| 次長兼文化財課長 | 藤田裕邦 |
| スポーツ推進課長 | 一松孝博 |
| 学務課長 | 北井啓司 |
| 指導課長 | 野間浩一 |
| 図書館参事 | 岩佐昌史 |
| こども未来部長 | 己波敬子 |
| 事務局教育総務課 | 寺川 款 |
5. 議事案件
- 議案第2号 柏原市学校教育基本目標ならびに重点目標の一部改正について
(継続審議)
- 議案第3号 平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の公表内容について
- 議案第4号 平成28年度柏原市立学校園管理職人事及び柏原市教育委員会事務局指導主事等人事について

6. 報告事項 他

7. 会議録の承認及び会議の要旨

三宅委員長： 只今より、平成28年 第2回定例教育委員会会議を開催いたします。本日の

会議録署名については、西 育代 委員、よろしくお願ひいたします。初めに、平成28年 第1回定例教育委員会会議録の承認をお願ひしたいと思います。会議録につきまして、何かご意見やお気付きの点がございましたらお願ひいたします。

委員全員 : (意見・異議等なし)

三宅委員長: それでは、平成28年 第1回定例教育委員会会議の会議録は承認することといたします。本日の議事に入ります。本日の議事案件は3件ございます。最初に議案第2号 柏原市学校教育基本目標ならびに重点目標の一部改正について、継続審議となっておりますけれども、改めて指導課の方から説明をお願いします。

野間課長 : 議案第2号 柏原市学校教育基本目標ならびに重点目標の一部改正について、指導課よりご説明申し上げます。前回、第1回定例教育委員会会議で審議していただきましたところ、委員の皆様よりご意見いただきました字句の修正および教育委員会としての指導事項にメリハリをつけるようにとのご指摘などについて、改正案に改めさせていただきました。主な改正としましては、朱書きしております。チャレンジテストや今回、新たに導入する統一テストの追加、学力状況・体力状況がより危機的な状況であるという文言、保育所との連携、体力向上について等がございます。ただ1点、大阪府からの市町村教育委員会に対する指導助言事項につきましては、大阪府教育委員会からの送付が遅くなり、反映することができておりません。つきましては、当資料につきましては、変更箇所等をご一読いただき、確認していただくということで、誠に申し訳ございませんが、再度、継続審議としていただきたく、お願ひ申し上げます。

三宅委員長: 指導課の方から、議案第2号 柏原市学校教育基本目標ならびに重点目標の一部改正について、改めて継続審議としていただきたいとの願ひがございましたが、大阪府の方の状況を中に盛り込みたいということでございますので、本日はこの件に関しましては審議せず、再度、継続審議ということにしたいと思いますが、よろしいですか。

委員全員 : (了承)

三宅委員長: それでは議案第2号 柏原市学校教育基本目標ならびに重点項目の一部改正については、継続審議とさせていただきます。続きまして、議案第3号 平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の公表内容について、指導課から説明をお願いします。

野間課長 議案第3号 平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の公表内容について、指導課よりご説明申し上げます。平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の公表内容について、でございます。別添の冊子の方をご覧ください。柏原市の結果について、まとめたものでございますが、大変ボリュームがございます。本日、配布させていただきました概要版とともに、柏原市教育委員会のホームページに掲載していきたいと思っております。顕著な傾向についてご説明したいと思います。別冊の結果について、ご覧ください。4ページでございます。小学生の体格についてです。小学校の方ですが、男女とも高度肥満児童の方が全国・大阪府に比べて多くなっております。5ページの方をご覧ください。小学校の1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合でございます。運動時間が60分未満は男女とも小学校は高い割合でございます。

三宅委員長： 女子でかなりの差が出ていますね。

野間課長： 7ページの方をご覧ください。体力の方の総合評価でございますが、小学生の男女とも評価A・Bが、全国に比べて少なくC以下に分散している状況が見てとれます。続きまして、15ページでございます。中学生の体格です。小学生に比べまして、中学生の方は、男女とも肥満傾向は全国並みとなっております。16ページです。中学校の方の1週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合でございます。男子の方は比較的改善され、女子の方は全国より少し高めとなりました。18ページです。中学生の体力・運動能力の総合評価です。男子は評価A・Bの割合が全国並みに接近、A・B・Cのトータルを見ると全国並みです。女子の方は上位層が少なめですが、中間層を含めるとほぼA・B・Cで全国並みとなっております。運動習慣等に関する質問紙です。運動好きは小学校では全国を上回っておりますが、中学校と学年が上がるにつれて運動が嫌いになる傾向がございます。特に中学生女子の運動離れは顕著であり、運動部に入っている生徒と入っていない生徒では二極化しております。別紙概要版の2ページの方をご覧ください。こちらに棒グラフと折れ線グラフがございますが、左の棒グラフの方をご覧ください。就学前の遊びの運動にも一因があると分析されます。就学前に色々な内容の遊びの運動に触れる子どもは、総じてポイントが高くなっております。今後とも幼小中一貫教育の観点から授業のみならず、休み時間などを活用して体を動かす機会を増やすことが重要だと考えております。簡単ではございますが、ご説明させていただきました。ご審議、よろしく申し上げます。

三宅委員長： 指導課から説明がありましたけれども、何かご質問などはございますか。今の最後の説明、就学前の女子のデータですけれども、肥満のデータ、これは小学校全体の、それとも5年生のデータですか。

野間課長： 小学校5年生のデータです。

三宅委員長： 小学校5年生のデータですね。この辺りも運動量との関係はあるのかなという気はしているのです。

野間課長： これだという相関関係というのは証明できませんが、恐らくそこにはあるのではないかと考えております。

三宅委員長： 逆にそれが原因と結果のサイクルみたいなことですね。太ってしまうと運動しづらい。運動しないから余計に太るということに繋がっている気がしないでもない。

吉原教育長： これは広報にはどの部分が載る予定ですか。

野間課長： 概要版でこうした形のものが、掲載される予定です。

中野次長： 広報にこのまま提出しましても、紙面の関係でカットされる部分が多分出てくると思いますので、ホームページでは詳細版と概要版の両方を掲載させていただくというようには考えております。

吉原教育長： ホームページをご覧になる方はご覧になるでしょうけれども、広報がやはり一番目につきやすいから、野間課長が最後の方に言われたように、傾向と対策というか、保幼小中の連携等が大事ということとか、家庭教育でのスポーツに対する興味・関心をどうして増やすかというメッセージを発信していくというのも併せてしていかないと、多分これだけを見ても、あまり興味を示していただけないだろう。結果を踏まえて、どうした

らいいのかという辺りを言っておいた方がいい。数字だけ並んでいても、多分理解してもらえない。

三宅委員長： 取組みとして、データから見てこうしていくということを、言葉で表して行って、そこを強調する方がいいかなという気がしますね。「全国学力・学習状況調査」の結果にしても色々な形を見て、体力もそうですけれども、柏原市は下がってきていると、そういうデータが顕著に出ているわけですから、それにどう対策していくかということを含めて市民の方に知っていただく、或いは保護者に知っていただくという取組みをしていった方がいいと思いますね。データはこうですと言っても、それだけでは教育長が言われたみたいに理解してもらえない。

吉原教育長： 今年タイミングとしてはオリンピックもあるし、その更に4年後には東京であるわけですから、スポーツに興味・関心を持っていただく、見るだけではなく、運動してみるとというのは、推奨してもいいのと違いますか。

三宅委員長： 逆にそれが体力だけではなくて、「全国学力・学習状況調査」にも結びついてくると思うのです。集中力を養うことに繋がっていくと思う。

西 委員： 毎年これを見せてもらうのですけれども、マイナス面ではなくて、いいところはないかなと思って、いつも探すのです。いいところを伸ばし、またできないことも少しずつできるようにといつも思うのですけれども、中学生になると、やはり体力的なもの、体力測定とかということに対しての意識的なものがあるって、頑張るといえると思うのです。全部頑張ろうと思ったら、大変なことです。日常生活の中でできるものだったらいいのですけれども、項目の中で今年はこれを頑張ってみようとか、このシャトルランというのが、小学校も中学校もすごく悪いのです。シャトルランは持久力を必要とするものだと思うのです。そして持久力、イコール学力だと思うのです。その時に頑張る持久力があれば、学力的なものも頑張るのかなと思ったりします。繋がっているのだろうなと思うので、柔軟性も欲しいし、走りも早くなりたい、あれもしたい、これもしたいと全部欲張ってくると大変なので、今年は柏原市として、ここを少し上げるように頑張ってみようとか、そういうちょっと目標を立ててみて、一つ自信に繋がれば、また次も頑張るとい、やはり子どもたちの自信、また先生方の励みにもなるかなと思うこともあります。毎年見ていて少し上がる、何がどうしたと、あまり顕著に目に見えてくるものがないので、その辺りのところを考えてすれば、そして「もう少し楽しみながら」という文言がどこかに入っていたかと思えます。あとは体育の授業で楽しみながらする、でも苦痛だなと思っている子どもも沢山いると思うので、何かしたことに対しての、少しできたという喜びを持つということが、頑張る大きな要因になるのではないかと思うのが一つです。あと生活面でやはりここでは全国的、大阪府的に見ても、携帯電話の持つ時間が長い、テレビの見る時間が長い、やはりここら辺りも考えないと、家庭面でも考えないといけないのですけれども、運動はいいと思うとか、体育が好きとかということが、全体的に大阪府に比べて柏原市が沢山あることはすごく嬉しいです。ただ結果に結びつかないというのは悲しいかなと、その辺りをどう改善していくかということを考えてほしいということです。あと中学校の方で気になったところで、ダンスとか武道の授業で、随分差があるのです。これ

はもう少し先生方に頑張ってもらったらどうなのかなと、中学校の方でダンスの授業でできたことというのは、24ページの女子のところですけども、全国では66%とかになってきているんですけども、柏原市は30%を切っているのです。これはここまで差が出るのはどうしてなのかなと、まだ行なっていないというパーセンテージもすごく大きいのです。何年か前から始まりましたが、柏原市がどのような取組みで進められているのかなと、こんなにパーセンテージの差が大きいというのは、どうかというのも気になり、また男子は武道ですが、こちらの方もやはり同じような結果が出ています。新しいことをしていただくことは大変だと思うんですけども、やはり全国的にやって始まったものなので、柏原市もその辺りもしっかりとついていけるように、先生方には頑張ってもらいたいと思ったりしています。それから普段の生活の中で子どもたちがバットを持ったりとか、ボールを持ったりとかしている姿を見ないし、歩いている姿もほとんど見なくなりました。やはり普段にそういった運動ができない、その場所もない、それも原因だと思います。家庭では運動しなさいよ、どうしなさいよということを、すごく家庭、保護者の方からも声かけしていただいているということも書かれています。意識は高いのだなど、ただ家庭で運動することが少ないというデータも出ています。今まではすぐ近くに原っぱがあったりとか、公園があったり、家庭で休みの日にちょっと行こうねと、できるところが今は少なくなってきている。柏原市のこの現状も少し寂しいかなと思います。他市に行くと大きな公園があったり、例えば隣の八尾市に行くと久宝寺緑地であったりとかね、そういうところで賑わって運動をしているので、河川敷で沢山遊んでおられる姿も見ますけれども、その地域、地域でそういうところもなくなったのが原因なのかなと思います。気軽に家族で行ってボール遊びをしたり、体を動かすことをしなくなったといえますか、やらないといけないという意識はすごく持っておられるのですけれども、上手くいっていないのかなと思います。それともう一つですが、小学校の体育の授業で学校を挙げて、時間はなかなか取れないのかもしれませんが、何とか大会、何とか大会とよくありますよね。この間、ドッジボール大会を壺下北小学校でされたと聞いています。そういうのを1年生から6年生までの交流を通じて、そういう何かこう全員で体を動かそうという、クラス単位とかではなくて、そういう日が1日でも、学期ごとに1回、2回でもそうした異学年を通じての遊びであったりとか、そういうことがもっと活発に行なわれれば、もっと皆が体を動かす機会というのが増えていくのではないかなと考えています。そうした取組みもしたらいいなと思って、またよろしく願いいたします。

野間課長： 分析内容と対策等をわかりやすい文面にしまして、広報の方に載せるようにしていきたいと思っております。運動能力の方につきましては、テーマ性を持って目標というのを校園長会の方で周知しまして、1種目ずつでも上げていくことはできないかという話をさせていただきたいと思っております。ダンスと武道というのは、学習指導要領に掲載されており、していかなければならないことですので、その旨の方も校園長の方に改めて指導していきたいと思っております。

田中委員： 武道の関係については、人事異動関係というのか、新しい人や専門の人とかは入ってきていないのですか。そのままの人員でしているのですね。

野間課長 : 学校で格差があるというのは、聞いております。

田中委員 : 指導できる先生があまりいないのですね。

吉原教育長 : しかし「全国学力・学習状況調査」で、その範囲まで行っていなかったという新聞に多く載っています。それと一緒にことと違うのですか。

三宅委員長 : ある意味、そうなってしまいますね。もしどうしても、その学校にそういう専門の教員がいなかったら、講師でも入れていって、掛け持ちで2つの学校を持ってもらうとか、そういう方法もやはり考えていかないと、していないでは済まされないことになってくると思います。

田中委員 : 体育の時間、全部ではなくて年間、何時間分だけです。やはり普段教えている先生が教えることになって、その人たちも講習受けるようになっているのですね。

野間課長 : はい、そうです。

三宅委員長 : その時間も確かに大変だと思いますし、そういうことを講師などでできればカバーしてあげて、子どもたちができるようにして行ってほしいなと思う。

田中委員 : ほとんど男性の先生がダンスを教えているのですね。女性の先生も教えているのですか。

野間課長 : 女性の方も教えています。

西 委員 : 女子は、女性の先生ですね。

田中委員 : 男子のダンスもあります。どうですか。

野間課長 : 組立ての中に、1種類として入れたりということをしています。

三宅委員長 : ソーランをしたり、そういうものもダンスとして、取り入れているわけですから。

野間課長 : 今後、大阪府の方も保健体育の方で力を入れていくという指導ですので、それに則って柏原市も指導していきたいと思います。

三宅委員長 : しかし、例えばソーラン等をしているのではないですか。運動会のために練習して、そうしたものを子どもたちがダンスとして認識、とらえ方をしなくて、それがアンケートのこういう結果が出てきているという可能性もなきにしもあらずではないですか。普通に考えたら、違うものを想定するではないですか。その辺りのことを子どもたちの方に対して、これもダンスだよということを理解させてあげないと、別のイメージを持ってアンケートを書いた時に、これだけの数字って本当にすごい数字でしょう。殆んどしていないのと同じということになってしまう。

蛇草教育監 : 言われるように、これだけ差があるということは、今のままではいけないということを表しているのだろうなどは痛感しているのですけれども、今言われたように運動会とするダンス、これは運動会のダンスというとらえ方を子どもたちがしているのかもわからないですし、それはすなわち指導の仕方の失敗というように言えるのと違うかなと思います。本来、運動会のダンスというのは普通の授業とするダンスの発表の場という認識にならないといけないのですけれども、運動会の場という特殊性から見栄えであるとか、揃っているとかというようなことを重視するところがありますので、子どもたちの指導ということからしても運動会の練習が嫌いという子どもが増えてきていますので、そういう

ところを含めて、やはり反省しないといけないところはあると思います。ただ、全然何もしていないのではもちろんないのであって、ご指摘のあったような研修への参加、それ以外にも柏原市でも剣道の専門の先生によって、全然知らない先生たちを含めた研修会するというのもしているのですけれども、先程申し上げましたように、これだけ差があるということは少し考えないといけないことだと思っております。

三宅委員長： それと先程、西 委員が言われましたけれども、それは全体ではなくてもいいと思います。学校、学校の特徴があってもいいと思います。この学校では今年これをやるよというような、それぞれの目標を決めてもらって、それに取組んでもらうというのは、いいのかなと思います。一斉に同じように、同じものをというのはなかなか厳しい面もあると思うし、一つずつクリアしていけるような形で取組んでいけたら、いいのかなと思います。市の持っているグラウンドや町会で管理しているような広場、スポーツ広場などの管理はどこがしているのですか。

井須次長： 市がしております。

三宅委員長： 市がしているのですよね。しかし、鍵がかかっていると子どもたちは使いたくても使えないという現状もあるのですよね。その辺りで開放できるところは開放してあげるとしても一つの方策になってこないかなと思うのですけれども、市内の公園を見てもみんなボール禁止になっているのですよ。そうすると、その禁止のところ子どもたちがボール蹴ったり、投げたりして、住民とトラブルが起きたりとかいうケースがよくあるので、できるだけ、そういう場所をやはり市の方も考えてもらえたらというようには思います。

西 委員： そういうところで、ゲームをしているという姿も見たりするので、そういうところは、できるだけ体を動かす。自由にさせてあげたいのですけれども、それも規制があってできない。

三宅委員長： 管理してもらう人は大変かもしれないけれども、できるだけボランティアの人たちを上手く活用できたら、そういう人たちに少し手伝ってもらう。チーム、学校であり、コミュニティースクールというように、これから先のことを考えていくと、地域を巻き込んで、そういう教育に関わってもらうということは大事なことになると思うので、そういうことも含めての、また事務局、指導課の方でも検討していただけたらというように思います。

野間課長： ありがとうございます。

山崎委員： 結果についての概要版の方で、ホームページで公表されると思うのですけれども、これは「全国学力・学習状況調査」の時も話し合いになったと思うのですけれどもこの上の枠内にある「この調査から測定できるのは体力・運動能力の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえ、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮し、学校毎の結果の公表は行いません。他校との優劣の比較が目的ではないことを再確認するとともに、柏原市全体の児童・生徒の現状を十分に把握し、今後の教育施策、教育実践、運動習慣の改善等に反映させ「生きる力」としての体力を育むことに活用します。」、この2つは「全国学力・学習状況調査」の時は、もうやめましょ

うとカットしましたね。このような言い訳みたいなことはカットしたではないですか。

野間課長： 「全国学力・学習状況調査」ではやめました。

山崎委員： これもなくてもいいではないですか。「全国学力・学習状況調査」でカットしたものをこれだけついているのもおかしいでしょう。掲載されるときに削除して出してくれたらいい。それと結局「全国学力・学習状況調査」にしても「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」にしても、結果が出てきて、あまりいいことはないなど結果が出てくるわけですね。ここで話し合いをする時に、西委員や、他の委員の方々が言われたように、例えば今年はそれぞれの学校で柔軟性とか持久力とか言って、何かをしたらどうですかという意見が出るではないですか。そういうことを事務局、指導課は聞いてくれているのだから、今年の結果を受けて来年どうするのかという、時間はないですけれども、再来年に向けてでもいいではないですか。何とか、手立てを打ってくださいと学校に言った時に、学校から上がってきた中で、この学校は持久力をやりましたという意見をここで出してよ。こういう学校が増えたのですよと、先程、意見が出てきたではないですか。ドッジボール大会とかマラソン大会とかやっている。そのようなことをしたらどうですかと、西委員が言われたではないですか。そのような事をする学校が出てきたのですよということを、この場を出してくれないと、一体どうなっていると、結果が悪くてこの場で議論をしたのに、1個も書いていないということになるではないですか。武道の課題にしても、実際に調べてみたら、こういうことが課題だったのですと、先生がしていなかったのですとか、している先生がいたけれども、少し自信のない先生もいたとか、或いは外部からの指導者が入っていなかったとか、研修が充分ではなかったとか、色々な課題があったので、このように改善しましたという話をこの会議でももらいたいね。広場で遊ぶようにこういう手を打ちましたとか。保護者向けの広報にはこういう言葉を入れたのですよとかということをして返してもらえたら、大変嬉しいことです。そうでないと毎年、同じことを繰り返して進んでいけなくなってしまいますので、ぜひ事務局、指導課は、頑張ってください。お願いします。

三宅委員長： 最後の25ページに「方策について」ということが載っているのですけれども、学校には冊子で配布されるわけだから、これを一番後ろにつけないで、1番前につけて強調するような形でやってほしいなど、1番後だったら場合によれば見ないかもしれない。前の方にこれを持ってきてあげる方が、いいかなと思います。

吉原教育長： 何かにつけて、PDCAサイクルを意識してね、次のサイクルにはどこまで行っているというのは、で、具体的に何をどうするという目標設定をして、それがどこまでできたのかというのを、見せていただくようなことをできればしていただきたい。校長先生にも常にそういうこと意識を持ってもらって、毎年同じことをやるというのは、決して尊いことではなく、何もしなかったら下りのエスカレーターに乗っているのと一緒で、それは大事ことであって、何もしないと他が上がってくるわけですから落ちてきていくことになる。

三宅委員長： 下の部分の最後の方策について、ホームページに載るのですね。

野間課長： はい。

三宅委員長： ショック療法ではないですけれども、冒頭にかなり厳しいことを書いて、方策として、こういうことをやりますというように持っていった方がいいと思うのです。こうなりました、こうなりましただけでは、確かにいいところはいいところで掲載すればいいと思うのですけれども、逆に悪い面を表に書きだす形にして、それに対して、どう対策を取っていくかということの説明していく方がいいと思うし、学校に対してそういう方法で臨んでいけたらというようには思います。他に何かご意見などはございますか。

委員全員： (意見・質問なし)

三宅委員長： それでは、議案第3号 平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の公表内容について、原案のとおり決定してよろしいです。

委員全員： (異議なし)

三宅委員長： 議案第3号 平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の公表内容については、原案の内容で公表することに決定いたします。続きまして、次の議案第4号 平成28年度柏原市立学校園管理職人事及び柏原市教育委員会事務局指導主事等人事については、人事案件ということで、非公開とし教育委員と担当課のみで審議したいと思いますが、非公開としてよろしいですか。

委員全員： (了承)

三宅委員長： ご了承いただきましたので、それでは議案第4号 平成28年度柏原市立学校園管理職人事及び柏原市教育委員会事務局指導主事等人事については後ほど審議することとし、報告事項を先に行います。平成28年度の主要事業計画について、教育総務課から簡潔に説明をお願いします。

【別冊資料を基に、各課より平成28年度主要事業計画について説明】

三宅委員長： その他、ございませんか。

出席者全員： (報告・連絡事項等なし)

三宅委員長： 報告事項などが、他にないようですので、少し休憩時間をとり、議案第4号 平成28年度柏原市立学校園管理職人事及び柏原市教育委員会事務局指導主事等人事について、審議したいと思います。

※ (人事案件につき、教育委員・担当課以外は退室)

三宅委員長： 教育委員会会議を再開します。議案第4号について、担当課の方から説明をお願いします。

松田課長： 学務課よりご説明させていただきます。お手元の資料をご覧ください。

【平成28年度柏原市立学校園管理職人事及び柏原市教育委員会事務局指導主事等人事について資料を基に説明】

三宅委員長： 只今の説明について、質問等はありませんか。

各委員： (管理職等人事について、質問する。)

三宅委員長： 他にご意見・ご質問はございますか。

委員全員： (意見・異議等なし)

三宅委員長： それでは、議案第4号 平成28年度柏原市立学校園管理職人事及び柏原市教育委員会事務局指導主事等人事については承認することといたします。それでは、本日、指導課より願いがあり、継続審議としました議案第2号 柏原市学校教育基本目標および重点項目について、第3回の定例教育委員会会議となりますと、学校現場に配布、周知するのがかなり遅くなってしまいます。臨時の教育委員会会議を開催して審議いたしたいと考えており、日程は2月17日、午前中をお願いしたいのですが、よろしいですか。

委員全員： (了承)

三宅委員長： 平成28年第3回の定例教育委員会会議の予定については、3月25日(金)午後3時からの開催となっておりますが、よろしいですか。

委員全員： (了承)

三宅委員長： それでは、本日の会議は閉会といたします。会議終了にあたりまして、山崎 職務代理よりご挨拶をお願いします。

山崎委員： 以上をもちまして、平成28年第2回定例教育委員会会議を終了します。本日はありがとうございました。

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

平成28年2月5日

柏原市教育委員